

## 「牛海綿状脳症（BSE）」に関する章の改正概要

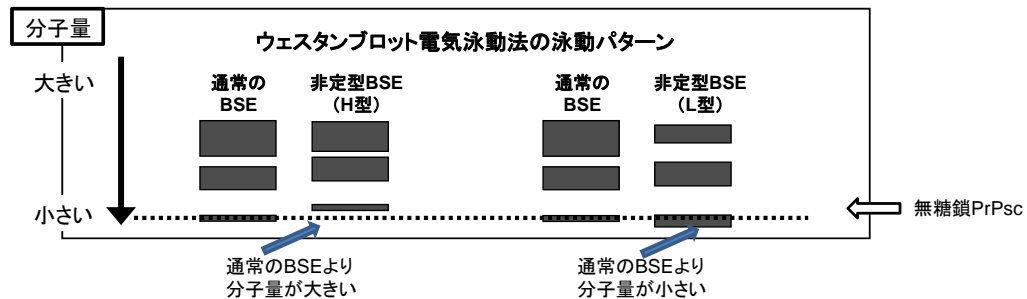
（OIEコードにおける当該章の位置）  
第Ⅱ巻 国際貿易上重要なOIEリスト疾病その  
他の疾病に適用される勧告  
第11部 牛疾病  
第11.4章 牛海綿状脳症

### 背景

- 従来のBSEとは異なり、孤発性の発生であると示唆される非定型BSEが世界各国（EU、米国、カナダ、ブラジル、日本等）で確認。
- 従来のBSEコードでは、従来のBSE及び非定型BSEの区別は行われていなかった。
- 世界的にBSE発生が減少する中、非定型BSEの重要性が増している。

# 非定型BSEについて

	従来のBSE	非定型BSE
定義	BSEプリオンが主に脳に蓄積し、脳の組織がスポンジ状になり、異常行動、運動失調などを示し死亡すると考えられている疾病 英国で1986年に発生を確認	ウェスタンブロット法の結果（電気泳動像）が従来のBSEとは異なるパターンを示すBSE
原因	BSEプリオンで汚染された飼料の経口摂取	孤発性の発生であることが示唆
潜伏期間・摘発時年齢	平均潜伏期間は5～5.5年 （潜伏期間はBSEの暴露量による）	ほとんどは8歳齢超で確認 （6.3歳～18歳）
世界での発生数	約19万頭	少なくとも100頭（2015年6月22日時点）
備考	—	ウェスタンブロット法の結果、定型BSEよりも無糖鎖PrP <sup>Sc</sup> の分子量が大きいものをH型、小さいものをL型と呼ぶ。 また、2011年にスイスでこれら以外の非定型BSE症例2例（8歳と15歳）が確認。



## 今回の改正に係る経緯

- 2014年11月、アドホックグループが開催。BSEコードの改正を検討し、提案。
- 2015年2月9-13日、OIE科学委員会が開催。アドホックグループの提案を検討の上、コード委員会に提出。
- 2015年2月10-19日、OIEコード委員会が開催。科学委が提出した案を検討の上、総会への緊急提案を決定。
- 2015年5月、OIE総会が開催。案を検討。

## アドホックグループ報告書

(2015年2月の科学委員会報告書とともに公表)

- 非定型BSEはいかなる牛群においても同じ低い有病率で発生する／非定型BSEは飼料給餌と関連しない。  
(事務局註:アドホックグループは、非定型BSEは汚染された飼料の摂取によらず、孤発的に発生することがあるとの立場)
- 侵入評価に関わらず、全ての場合において暴露評価を実施することを提案。
- 非定型BSEと従来のBSEを区別するための検査に関し、陸生マニュアルを改正する必要性について、(科学委員会が)ラボラトリー委員会と議論するよう提案。
- 飼料規制が効果的に実施されている等すれば、非定型BSEの発生はBSEリスクステータスに影響を与えるべきでない。

## アドホックグループ報告書

- 非定型BSEの循環を防止する上でも、飼料規制が最も重要なリスク低減措置である。  
(事務局註:アドホックグループは、非定型BSEについても、従来のBSEの場合と同様、その循環を防止するには飼料規制が必要であるとの立場)
- 無視できるBSEリスク国において、飼料規制後に生まれた牛由来の肉骨粉の貿易を制限することを提案。
- 無視できるBSEリスク国の96か月齢超の牛の脳、眼、せき髄及び頭蓋を貿易しないことを提案。
- 目標ポイントの再設定を含めたサーベイランスシステムの見直しを提案。(事務局註:高齢牛にこれまでより高いポイントを与えるというもの)
- 牛以外の反すう動物の輸入は、BSEの侵入リスクとされない。

## 科学委員会報告書

- 非定型BSEを従来のBSEと区別するための改正については同意し、コード委員会でさらに検討されるよう、改正案及びアドホックグループ報告書を提出。
- ラボラトリー委員会は、陸生マニュアルの改正を検討するよう提案。
- 提案のあったサーベイランスシステムの見直しは、BSEリスクステータスの認定を受けた一部の国には適当でないとして、これを行わないと結論。

## コード委員会報告書

- 非定型BSEの発生がBSEリスクステータスに影響しないようにする変更は緊急に対応すべき。
- 侵入評価に関わらず、全ての場合において暴露評価を実施することも提案を決定。  
※ 通常であれば、加盟国の意見を聴取する等、2年かけて改正。
- その他は次回のコード委員会(2015年9月)で検討する。
- 報告書には、上記を踏まえた改正案が添付。

## OIE総会における議論

- 非定型BSEの発生がBSEリスクステータスに影響しないようにするとの提案自体に反対はなし。
- 米国、カナダ、豪州及びニュージーランドのグループは、全ての場合において暴露評価が必要とされることも含め、十分な検討機会が与えられていないことから、採択を見送るべきと意見。
- 我が国からも、国内関係者へ説明する機会が与えられていないことから、採択後にコメントを提出する可能性がある旨発言。
- アフリカグループ、欧州グループは採択を支持。

## OIE総会における決定

- OIEコード委員会議長は改正案を廃棄した上で、以下を提案したところ、全会一致で採択。

— 第11.4.1条に以下の一文を挿入する：

BSEリスクステータスの認定に当たっては、全ての牛群で低い確率で自然発生すると考えられている「非定型BSE」を除外する。

## 今後の予定

- 9月、コード委員会が開催。
- その後、OIEより新たなBSEコード改正案が提示され、加盟国に対して意見照会される予定。